

平成25年度 第2回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取工業高等学校

学校長 小宮山 信行

評価日	平成26年2月21日(金)	
評価・提言	学校の所見・改善策等	
<p>1 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 各重点目標の達成状況とその評価について</p> <p>○確かな学力の育成</p> <p>ア. 自宅学習の時間が、6月段階より減っているものの昨年度同時期と比較すると、増加しているが、その背景としては何か取組を行ったのか。</p> <p>学習への外発的動機づけが功を奏したようであるが、内発的動機づけも必要であり、個別面談を増やしたことも自宅学習時間の変化につながったと考えられ、内と外の両面から動機づけをしていくことを意識した指導が必要と考える。</p> <p>職員による取り組みは、十分に取組み、限界に達している面があるので、倉吉東高が取り組んでいる「チューター制」のような生徒主体の形を検討してみることも必要ではないか。</p> <p>イ. 廊下をみてもきれいに清掃されている様子がかがわれ、課題であった「5S」の徹底が図られつつあるように感じられるが、職員室の整備はできているのか。生徒に指導をしていくに当たり、教師自らが範を示すようにしていくことが大切である。</p> <p>ウ. 学習環境の整備は、使う生徒が気持ちよくきれいに使おうという気持ちがないとうまくいかないと思う。学校の先生方は指導されているので、家庭でのそうした指導が行われていく必要がある。学校と保護者の連携を進めていくことが大切である。</p>	<p>○進学・就職に際しての推薦要件を変更したことで、勉強しないといけない条件ができたことや生徒との個人面談を行事に組み込み生徒理解を図って、生徒の意欲を高めるようにしたことが学習時間の増加につながったと考えられる。</p> <p>○昨年度は、倉吉総合産業高校を訪問して、遅刻に対する取組等を学ばせてもらった。生徒主体の形については日頃から学校長としても考えており、検討してみたい。</p> <p>○「5S」の徹底を進めており、少しは改善の兆しがあると考えているが、ご指摘の通り、職員室の整備状況は必ずしも良いとは言えない。職員へ周知して、整備を進めていきたい。</p>	

<p>○豊かな人間性の育成</p> <p>ア. 昨年度に比べ、欠席・遅刻・早退の人数が減少しており、また生徒指導人数も減ってきており良くなっていると感じられる。生徒が少しずつ成長してきているのではないか。</p> <p>欠席者数については、教育相談が必要な生徒との関連が強いと思われるが、その点についてはどうか。</p> <p>イ. 学校内での事故については、把握が十分にされているか。</p> <p>ウ. 「豊かな人間性の育成」という目標は、崇高なテーマであり、家庭教育も含めた周りの大人の行動が大きな影響を与えられる。生徒に対して大人の人生哲学を披歴したり、優しさや思いやりが大切であることを示したり、価値観の違う人との接触を持たせたりすることが大切であると考える。ボランティアについても生徒が主体的に参加したいと思うような指導をしていただきたい。</p> <p>エ. 「豊かな人間性の育成」については、教員・生徒が徹底して取り組む必要がある。たとえば1年では「5 S・あさひ」、2年では「ボランティア」といったように、学年によって力点を置く目標を変えてみてもよいのではないか。</p>	<p>○職員が生徒面談を通じて、生徒理解に努めたことが、地味ではあるが、確実に成果につながりつつあるように考えている。年度末の3月においても、次年度につながるように生徒面談を行事に組み込んでいる。</p> <p>○欠席者数の中には、指導による欠席も含まれている。ご指摘の教育相談のことについては、今年度のスクールカウンセラーの方に恵まれ、生徒のみならず保護者の相談にも丁寧に対応してもらっている。</p> <p>○外傷などの怪我があった場合、保健室の日誌に記録されることとなっており、管理職が確認できるようになっている。また、病院に連れて行くような怪我の場合は、管理職に報告があるようにしている。</p> <p>○クラスごとに目標を決めて、掲示して取り組んでいる。そのうえで、各学年の目標に取り組むようにしている。</p>
---	---

<p>○キャリア教育の充実と生徒の進路実現</p> <p>ア. 就職と進学の実況は、どのようになっているのか。また、就職の一次不合格の生徒の分析はできているか。</p> <p>イ. 就職内定率については、数字だけが独り歩きすることのないように、第一志望とする企業の方向に合致する形で就職できているかどうかを大切に指導していただきたい。また、企業についてはインターネットでの調べ、職場見学会への参加によって判断するだけでは不十分であり、ミスマッチを防ぐためには、企業訪問のやり方を検討してみることも必要ではないか。</p> <p>ウ. 企業に入社してから困らないような進路指導をしていくことが大切。生き生きと働くことができる社会で受け入れてもらえる生徒、目的意識を持った生徒の育成をしていただきたい。</p> <p>エ. 新聞やテレビといったマスコミの活用についてはどうか。</p> <p>○その他</p> <p>ア. 教員の学校評価アンケートの項目の中には、大変気にかかるものがあり、職員が積極的に学校の雰囲気をよくしていく活動をしていく必要があるのではないか。そのためにも、学校長の学校運営の意向が職員に徹底する必要がある。</p> <p>イ. 生徒の学校評価アンケートにおいて、制御・情報科の生徒の学校満足度が低いように見受けられるが、どのように分析しているか。</p> <p>制御・情報科は企業サイドからみても中途半端</p>	<p>○3年において進学志望より就職志望のほうが増えている。その傾向は2年においても同様となっている。</p> <p>就職試験において一次で不合格になった生徒については、進路指導部が可能な限り企業に状況を聞いており、その状況については職員全体に周知し、以後の指導に生かせるようにしている。</p> <p>○県教育委員会に資料提供という形でマスコミには情報を提供している。</p> <p>○ご指摘の通り、制御・情報科の生徒の満足度が低いと捉えている。その要因の一つが制御・情報科に対して抱いていたイメージが、入学してみると違っていたことにあると考えて</p>
--	--

に見えてしまう面がある。学校案内の表現の仕方についても工夫がいるのではないか。

ウ. 中長期ビジョンに示されている一語一語には深い意味が込められており、言葉の羅列ではないことを教職員に理解させていくことが大切である。

いる。そのため、科の職員がそうしたギャップを埋めるための方策を検討しているところである。